

3月号は、p.1『11期生が卒業しました』、p.2『卒業生の言葉』、p.4『9年保護者の言葉』、p.6『卒業プロジェクト』、p.7『3学期 修了の会』、p.8『卒業オイリュトミー発表』のトピックでお届けします。

## 11期生が卒業しました

9年生担任 神田 昌実



2024年3月17日(日)、16人の11期生たちが晴れやかな顔をして卒業していきました。私はやはり、みんなの期待通りか、期待を裏切ったか、泣きませんでした。自称「涙の枯れ果てた女」は今回も健在でした。

2015年4月、16人の1年生が入学してきました。1年生は誰もどんな先生が担任なのか、男の先生か女の先生なのかも知りません。「それでは担任の先生を紹介します。神田先生～」と呼ばれ、「はい」と応えて真っ白いワンピースにピンクのスクarfを巻き、満面の笑みで小走りに霧が丘のオイリュトミー室に登場したことを思い出します。その数週間前に2期生を卒業させた私は、9年生相手の所作が身につけていたので、再び1年生の担任になるための自分の変革が必要でした。今考えてみると1周目の1年生に対しての時よりも2周目の1年生に対しての方が、私の内面は対上級生モードの残った冷静で客観的なものだったかもしれません。

16人中、兄弟が既に横浜シュタイナー学園に通っていた子が7人いました。シュタイナー教育の幼児教育に興味を持っていたり、子どもにそれを体験させていたりするご家庭も多く、クラス運営はとてもやりやすいものでした。なぜなら、「大人の言うことを聞いていれば、安心して自分は育ていける。」という幼児にとって一番重要な「大人への信頼」を当たり前のように持っている子たちばかりだったからです。ですから担任である私の言うことに、子どもたちは何の疑いもなく従ってくれるのです。「やだー」とか「なんでー」とかいう反応がそのたびに出るか出ないかで一つ一つの授業の進み方がどれほど違ってくるか想像してみてください。たまに「なんでー?やだあ。」ということもありましたが、そんな時は、子どもたちの中から「先生の言うことを聞いてい

ればいいんだよ。」という言葉が出ることもあり、「すごい子たちだ。これは世界一の1年生かもしれない。」と私は思いました。そこで「みんなはすごいよ。こんなすごい1年生は多分世界中探してもいないと思う。みんなは世界一の1年生だよ。私は自慢しちゃうなあ。」などと本気で彼らを褒めることが多くなりました。彼らもまんざらではない様子で、「先生、そんなに自慢しちゃだめだよ。」などと嬉しそうにしていました。

9年間の間に何人かの転入や転出があり、最後はまた16人で卒業となりました。卒業時の16人も私の自慢の世界一の9年生です。男子は精悍でかっこよく、女子は気が利いておしゃれで優しく、そして男女ともに仲が良く、私の急な思い付きや無茶な要求に文句を言いながらも、どうすればできるかを考えて応えてくれる臨機応変さが身につけています。この素敵な子たちを学内に知らせ、アイドルにしようと考え、「各自が毎学期、全クラスに突撃ランチに行き遊んであげること!」というお触れを出しました。彼らの訪問は低学年からとても喜ばれました。何も言わなくても小さい子たちを可愛がってあげることが自然にできているすごい子たちです。

卒業プロジェクトでは各自が自分らしい等身大の発表を全力で行いました。どの発表も興味深く惹きつけられるものでした。彼らの大きな成長を感じました。修了の会の合奏、卒業を祝う会でのオイリュトミーの発表も本当に素晴らしかったです。舞台の上でのリハーサル時に「男子は指先まで「私」を送って、特に手の平を真っ直ぐしっかり伸ばした方が良いと思う。」とアドバイスすると、それはすぐに実行され、中学生がこんなに綺麗なオイリュトミーを動かすることができるか!と驚くような動きを見せてくれました。

しかし、修了の会の前日の夜まで、当日着るシャツを仕上げたりと、最終段階まで「本当に間に合うの?」とヒヤヒヤさせられるのもこのクラスの特徴です。白状するとそれは全て担任の私の負の側面の影響なのです。完成して配布された版画カレンダーの表紙は私の力作ですが、下絵ができても彫りに取り組む時間が取れず、早く終わった生徒や美術の太田先生に手伝ってもらい、製本する前の晩の22時までかけてやっと刷り上げました。9年間も一緒なのですからこんな私の影響を受けないわけがありません。だからこそ声を大きくして言います。「みんな、人生は一生自己教育だからね。自分で学びなさい。私は反面教師です。」



9年間、本当に有り難うございました。

僕にとって 今までの人生の半分以上を過ごしたこの学園は、色々な意味で一般的な「学校」の枠を越えた存在です。

ここで育むことができた豊かな土壌に、これから先、自分らしい植物を生やしていきたいと思えます。9年間お世話になった全ての皆様、本当にありがとうございました。

伊藤 風人

私は低学年の頃、結構消極的だったという記憶があるのですが、7年あたりから段々意識が変わり始め今は以前よりは積極的、ポジティブになれたかなと思います。そのお陰で色々なことに携わることができ、意識を変えただけでこんなに違ったんだな、と感じました。

本当にあーという間に過ぎてしまった最後の一年でしたが、この一年が9年間で一番楽しく充実した一年でした。

今まで 私に様々な言葉を掛けて下さった保護者の皆様、先生方、そして何より神田昌実先生に、心より感謝申し上げます。

本当に、ありがとうございました。 上野咲希

この9年間は  
未来の糧に  
ナルビョウ!!  
小野山夢吹

9年間 お世話になった皆様へ

9年間という長い間 本当にお世話になりました!!



これからも沢山の事に挑戦していきたいです。

ありがとうございました!

加納 美月

横浜ジュライナー学園にかかっている全ての皆様、今までお世話になりました。ここで9年学び、私は人として成長できたと感じています。

ここでの経験、学びをかえて、これから歩んでいきたいと思えます。

これまで、本当にありがとうございました。

笹本 結

今までお世話になった方へ

ありがとうございました

勉強になりました。

清水 仁央

9年間ありがとうございました。

私は1年生の時からこの学校にいて、なかなか面白い子供だったと思うのですが、先生やクラスメイトの皆さん、とても優しく接してくれたので何とかここまで来ました。この学校に通う事ができてとても幸せでした。

本当にありがとうございました!!

白松 友里

私は、一年生の時から 九年生まで、沢山の皆さんに支えられてきました。生徒の皆さん、保護者の皆さんそして先生方、本当にありがとうございました。九年間、沢山の楽しい思い出ができました。本当にありがとうございました。

田幡 いさら



九年間、ありがとうございます。  
また卒業の実感が湧いていませんが、とても  
名残惜しいです。楽しい時間と急がしい時間は  
速過ぎるものですが、最後の一年は正にそれでした。  
その楽しい時間を作って下さった神田昌実先生、  
クラスメイト、両親、先生方や保護者の皆さん、後  
輩たちにお礼を言いたいです。

本当に、ありがとうございます。

千代松

横浜シュタイナー学園関係者の皆様  
7年間 本当に お世話になりました。  
公立の学校とは違って一人一人  
の個人を大切にしている方針が  
私にとってはすごくうれしかったです。  
本当にありがとうございます。

寺本 柚葉

9年間本当に横浜シュタイナー学園  
にはお世話になりました  
今までたくさんのお話を学び 体験して  
楽しく過ごすことが出来た良から、ただす  
ほんとうにありがとうございます。

松井麻紘

あつという間の九年間でした。

入学した当初は九年間通えるかな...と思っ  
ておりましたが、すごく充実して楽しい学校生活だったと  
感じています。楽しいと感じる事ができたのは  
保護者の皆様、先生方、そして何より担任の  
神田昌実先生、クラスのみんながいてくれた  
から、ここまで来られたのだと思います。

本当にありがとうございます。 村松木菜

何も知らない世界から飛び込んだ横浜シュタ  
イナー学園。4年間しか通っていないけれど公立  
の学校とは違う新しい発見などがありました。すごく  
楽しかったです。楽しく学園に通える様にして  
くれた先生方、保護者の皆様、通わせてくれ  
た両親、本当にありがとうございます。

百合野くるみ

僕は3年生の時、この学校に入りました。  
学校に入るとすぐ入院という壁にぶち当たりました。  
でも帰ってきた僕を笑顔で迎えてくれた先生  
の皆さん、僕をこのクラスに迎えてくださった神田先生。  
良いことは"さ"かけてくれた専科の先生たち。  
この学校をより楽しく笑顔にしてくれた後輩の皆さん  
そして先輩の皆さん。

約6年間ありがとうございました。吉田道

9年間 本当に  
お世話に  
なりました。

渡邊修志

9年間 お世話になりました。  
今後も自分の道を進んで行  
きたいと思います。  
皆様、有り難うございました。

渡邊 信自



## 9年保護者の言葉

9年前の風人は、心優しく、恥ずかしがり屋で、たくさんの食物アレルギーを持つ子でした。

最高の仲間、先生方、保護者の皆さん、先輩・後輩の方々等、多くの方から溢れる愛を頂いて、一つひとつの体験が彼の中で輝くエネルギーとなりました。

気づけば身長も逞しさも親を超え、彼ならではの人生を歩み始めています。

8年生劇と卒業プロジェクトを経て、子どもたちが自立しながら深くつながっている美しさを目の当たりにしました。

これこそが彼らの人生の土台となると確信しています。

本当に有難うございました！

(伊藤梓・秋津)

神田先生、クラスの皆さん、そして学園の皆さま、9年間ありがとうございました。

声も小さく、引っ込み思案だった娘も、今では人前で堂々と話をしたり、ちょっとした間違いにツッコんだり、皆さんの前では“素の自分”をさらけ出すことができるようになりました。どんな時でも、どんなことがあっても、決して裏切らず、受け容れてくれる、そんな信頼関係があるからこそ、娘自身も気取らず、素のままでもいられるのだと思います。

そんな娘を見るにつけ、この学園に通うことが出来て本当に良かった、と心から感謝しています。

(上野高弘・祐美子)

やはり横浜シュタイナー学園に入学させてもらい本当に良かったと実感しております。9年間の学園との関わりのお陰で保護者の私も大変成長させてもらえたと感謝感謝です。子どもは卒業してしましますが、これからも学園との関わりを大切にしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

(小野山章久)

9年間を振り返ってみると、子どもたちを大切に育てて頂いているという大きな安心感の中で、私自身も豊かな出会いと沢山の学びがありました。ここに通って生き方が良い方向に変わったように感じます。小さな共同体ゆえの不便さはあるけれど、この学園は、美しく澄んだ大切な場所だと思います。支えくださった皆様に心から感謝いたします。

(小野山陽子)

明るく頼もしい神田昌実先生に導かれて、あっという間の9年だった気がします。低学年の頃、美月が「ねえ、先生？」と、間違えて話しかけてきた事がありました。いつもこんな風に神田先生を慕っているのだと嬉しく思いました。困った事も何度かありましたが、神田先生に励まされて乗り越える事が出来ました。

## 11期生保護者

振り返ると、学園の先生方並びに神田まクラスの皆さんに、美月は見守られ、支えられて、成長して来たとしみじみ感じます。

9年間どうもありがとうございました。

(加納健・真理)

9年前入学の際は、横浜シュタイナー学園の本質的な良さに期待しつつも、公立の学校ではない所に通わせて問題はないのかという不安もありました。9年間様々な経験を経て育った結を見てこの学校にいてよかったなと感じています。神田先生や学園に携わるすべての方々感謝いたします。本当にありがとうございました。

(笹本友幸・知子)

親にとって9年目はギフトの年。長女が4年前に卒業したときとてもとても幸せで感謝が溢れました。2度目のギフトの年も、やはり最高です。卒プロを終え、過去の様々な苦労はもうどこかへ吹き飛び、反抗期の難しかった日々もすでに愛しく感じます。シュタイナー教育に、そしてみなさまに出会えてよかったと、学園が在ることへの深い感謝の思いです。本当にありがとうございました。親子で恩返しの日々を生きていきます。

(清水大樹・恵子)

横浜シュタイナー学園の保護者として9年間、あまり熱心だったとは言えませんが私たちに参加してきました。こんな私たちでも受け入れていただいたこと、感謝に堪えません。この9年間、先生方や他の保護者の方々に支えられてきたことに感謝いたします。また、子どもたちにも感謝していますし、子どもたち自身にも感謝の心を持って欲しいと願っています。

卒業生に一言、皆さんは、ひとりではありません。心から応援してくれる人たちがいることを忘れないでください。

本当にありがとうございました。

(白松浩・栄子)

殺風景な玄関が、1年後、一面ピンクのにじみえになったのを見て、小さくも、揺るぎない命の炎が、この学校に宿ったように見え、家族でお世話になることを決めた。子どもは大人の思う以上に、魂全開で育つと途中から確信し、とにかく大人たちが学ぶことだと思った。本気で泣き、笑い、憤り、労いあった、我が家の保護者としての学校づくりもやっと卒業です。3人の子どもがここに私たちを導いて、先生と仲間に出会い、やり切った18年。大好きな場所でした。そう思うと、儚く、長くはない気がします。感謝をこめて。

(田幡秀之・美江子)

この学園に出会えてよかった。そして神田ま先生にめぐり逢えた事、本当に幸運でした。

小さなころから目立つことが苦手だった桜が、いつの間に「桜は口がうまいんだよ」などと友達に言われ、卒業プロジェクトで堂々と話し、笑いと感嘆の声を浴びるようになるとは。9年で花開くとはこういうことなのだと感動しています。いや神田ま先生の力か。

教職員の皆様 / 生徒たち / 保護者各位、霧が丘地域 / 新治の自然、会えなくなってしまった方々を含め、学園に関わる全てに感謝します。

願わくば次の子どもたちのための環境に自分たちもなれますように。

(千代継・由美子)

柚葉が私たち家族をシュタイナー教育へと導いてくれた！！と思っています。柚葉がいなければ、この教育へ足を踏み入れることはなかったでしょう。不思議ちゃんと言われた柚葉を温かく見守り、受け入れて下さった神田先生、クラスメイト、そして先生方や保護者の皆さまには、感謝してもきれないくらいの気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

学園に入ってから、喜びも悲しみもありましたが、すべて自分事として受け入れることを学びました。

たくさんの人との出会い、体験はかけがえのない宝物です。

(寺本義規・藍)

娘が卒プロ作成中に、学園では普通の事が、日本ではまだ一般的でない事が沢山あるんだね。お母さんたちは、よくこの学園に子どもを入学させたねと、話してきました。こういう事を考えるようになったのだなと、成長を感じました。私はこの時、学園の普通の中には日本では少数派である事もあるけれど、大人たちは、楽しそうに学園づくりをしているでしょ。そういう事が出来る日本は、恵まれているねと話しました。娘も頷いていました。学園の大人たちが、楽しそうに学園づくりが出来る未来がずっと続く事を心から願っています。

(松井敬一・野枝)

この9年を振り返ると、長かったような短かったような月日でした。途中の歩みは、笑いの多い時もあれば、転んだりゆっくりと休憩したり、ともに過ごした仲間とかけがえのない道中だったと思います。

そして、お友達、先生方、保護者の皆さまに温かく見守られ支えられた9年間でした。横浜シュタイナー学園での体験は、親子共にかけがえのない今後の人生の糧となることだと思えます。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(村松貴之・信代)

学園には6年生からの編入でしたがくるみを受け入れて頂き4年間大変お世話になりました。

多感な時期で難しいこともありましたが神田先生の包容力に救われ、親子共々成長する事ができました。

クラスの保護者も皆優しく、子どもの成長を楽しんでいる環境は子も親も幸せな環境でした。

本当にありがとうございました。

(百合野剛・仁美)

横浜シュタイナー学園に関わる全ての皆さまに感謝です。色んなことがありながらも卒業という美しい景色を見せていただき、この場所で、学べたことが宝物です。

一つ下の学年に入ると決め、神田まさみクラスの一員として卒業すると、夫と私と息子で話したことが鮮明に思い出されます。神田先生の毅然とした態度や話して下さったことは彼の身体や精神の一部となりました。

神田まさみクラスの保護者の皆さんの安定感がいつも安心と心強さを与えてくれました。

卒業しても、未来の学園の子どもたちや保護者の方々の力になればと思っています。

(吉田紀子・直人)

先日の卒業プロジェクト発表会は、学園での学習・体験を通じて9年間育まれた生きる力が強く放たれた瞬間でした。想像以上に考える力がついていることに感心させられ、聞いていた私たちは力をもらいました。私たちも何か新しいことに挑戦したい、と勇気づけられました。子どもたちが希望に満ちた卒業を迎えることができました。学園の先生方、保護者の皆様、そして学園を支えてくださっている皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。これからの成長もいつまでも見ていきたいです。ありがとうございました。

(渡辺健・未穂子)

ついにこの3月、次男信自の卒業をもちまして、私たち夫婦も横浜シュタイナー学園の保護者を卒業します。学園に関わる11年間、常に学園全体に漂う温かさを感じ、どこかで誰かに支えられている日々でした。

二人の子どもは学園でたくさんの大人の深い愛情を受けて、世界、他者に対する信頼、自分に対する自信を持って卒業の日を迎えました。親だけではなかなか力が及ばないところで、この学園で皆さまのお力のおかげで、子どもたちは自由に羽ばたいていくことができました。この場をお借りして、深くお礼を申し上げます。

(渡辺則誠・みゃお)





「馬と人の関わりとその歴史について」



「香りについて」



「錯視」



「子ども医療センターについて」



「楽譜」



「メルヘン」



「館ミステリー」



「西表島のヤエヤママルバネクワガタ」



「水と健康の関わり」



「ドクダミと日本の植物の民間療法」



「大館 曲げわっぱ」



「なぜ人は表現するのか」



「日本舞踊」



「発光」



「楽器を作る～ヴァイオリン製作体験を通して～」



「時代で変わる鍵盤楽器」

3学期末の「修了の会」では1年生から9年生までの子どもたちが順に登場し、1年間学んできたことを教職員、保護者、他学年の子どもたちに見守られながら披露します。

学年が上がるごとに変化する体つき、動き方、そして発表内容から子どもたちの成長を喜びをもって受けとめていく貴重な機会となっています。



1年生 中国語：詩、歌、早口言葉、  
わらべ歌



2年生 リズムの時間より



3年生 中国語劇「おおかみ少年」



4年生 音楽：カノン 笛「オーケストラ」  
輪唱「グローリア」



5年生 音楽：「ミネリート」リーム  
「黄金の太陽」林光



6年生 中国語劇「孫悟空三打白骨精」



7年生 「エネルギーの踊り」  
「越天楽今様 春のやよい」 慈円



8年生 8年劇の感想



9年生 音楽：「フィガロの結婚 序曲」  
モーツァルト  
「La Califfa」 モリコーネ



合同合奏 「Con Te Partirò」 フランチェスコ・  
サルトーリ  
「The Wellerman」 ニュージーランド  
の歌より



毎年、修了の会に引き続いて卒業を祝う会が持たれます。

翌日の卒業式に参加することができない低学年も含め、全校生徒で9年生の卒業と門出を祝いました。

9年生が練習を重ねた卒業オイリュトミーを披露し、会場は大きな拍手と感動で包まれました。9年生からの言葉、担任の神田昌実先生からの言葉、そして会場の全員で音楽部の伴奏とともに「卒業を祝う歌」「学園に捧げる歌」を合唱しました。



J.W.v. ゲーテ 西東詩集より ・呼吸の中には～ ・逃走 ・タリスマン  
F.P. シューベルト 即興曲 Op.90-1 ハ短調



横浜シュタイナー学園 ～Newsletter 第163号～  
2024年3月28日発行

編集：広報の会  
発行：NPO 法人横浜シュタイナー学園  
<https://yokohama-steiner.jp>  
〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20  
TEL 045-922-3107  
※ 掲載内容の無断転載をお断りします